

□■受験対策ミニ講座 2号 2022□■（養成所ニュースプラス 7号）

昨日から国家試験の受験申し込み受付期間が始まりました。修了見込み要件を満たす方には、当養成所から「修了見込証明書」をお送りしています。いよいよ受験の申し込みです。申込期間は10月7日（消印有効）までですが、出願書類の作成や受験手数料の振込、縦4.5、横3.5cmのカラー写真の貼付など時間は必要です。更に「受験の手引」には、必ず「簡易書留」で郵送し受験票を受け取るまで控えを保管するよう指示があります。期間に余裕をもって準備しましょう。

さて、第2回の今回も「相談援助の基盤と専門職」からです。いつものように、選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかあわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz

【31回問題 92】「ソーシャルワークのグローバル定義」（2014年）に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

1. 定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。
2. 中核となる原理の一つに画一性の尊重がある。
3. セラピーやカウンセリングを含めず実践する。
4. 複数の学問分野をまたぎ、その境界を超えていく。
5. 経済成長が社会開発の前提条件になるとされている。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・(33期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(34期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」、「スクーリングへの出席」、「授業料の納入」が必須となります。
- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第35回国家試験は、令和5年2月5日（日）です。
試験概要はこちら→<http://www.sssc.or.jp/shakai/gaiyou.html>
受験申し込み手続きについてはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/tetsuzuki.html>
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です（9月15日申込締切）。
詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>

※締切間近ですので、検討されている方は早急にご確認ください。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。
詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz・・・・・・正答と解説】

ソーシャルワーク専門職のグローバル定義は、2014年に国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択されました。国家試験でも、第34回では出題がなかったものの、2016（平成28）年実施の第28回以降、問題92で毎年出題されてきました。出題内容は、定義だけでなく、「注釈」からも出題されています。ご自身の実践をイメージしながら、そして、選択肢になりそうな用語をチェックしながら熟読しましょう。2020（令和2）年6月に採択された社会福祉士の倫理綱領や2021（令和3）年3月に採択された社会福祉士の行動規範と同様に、日々の実践を振り返るとき、ジレンマを感じたときに立ち戻る拠り所でもあります。生きた倫理・価値として頭と体に染みこませてください。

ソーシャルワーク専門職は、「基盤となる諸原理」を拠り所にして、様々なレベルで「中核的な任務」を行います。過去には、中核をなす原理、中核となる任務、定義、基盤となる知などが出題されています。また、第33回では、旧定義と比べて「変化した内容」が問われました。言葉を記憶するだけでなく、言葉のもつ意味を理解することが求められています。2000年の旧定義と2014年定義を比べると世界のソーシャルワーカーたちが何を論議してきたかが分かります。定義を理解していれば、確実に答えることができます。

1. ○定義において示されています。33回にも出題されました。
2. ×定義では、画一性ではなく「多様性の尊重」が示されています。「多様性の尊重」は29回、32回、33回にも出題されています。
3. ×注釈の「実践」の節では、「ソーシャルワークの実践は、さまざまな形のセラピーやカウンセリング・グループワーク・コミュニティワーク、政策立案や分析、アドボカシーや政治的介入など、広範囲に及ぶ」とあります。
4. ○注釈の「知」の節に示されています。32回にも出題されました。
5. ×注釈の「中核となる任務」の節には、「経済成長こそが社会開発の前提条件である従来の考え方には賛同しない」とあります。開発途上国の意見や実情も反映されたものであるため、経済成長が社会開発の前提条件にならないという考え方です。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus